

学校法人 明の星学園
青森明の星短期大学附属幼稚園

1. 本園の教育目標

◎明の星学園 幼稚園モットー “豊かなこころ”

◎教育目的

本園は、カトリック精神を具現化した学園訓-正・浄・和-に基づき、世界の平和と人類の福祉を心に刻む人間を育成するため、幼児に適切な教育環境を与え、安定した情緒のもとで、心身の調和のとれた発達を助長することを目的とする。

◎明の星幼稚園の目指すもの

- ・神様や他の人から愛されていることを体験を通して知り、祈ることのできる子どもたち。
- ・主体的に生き生きと生命を輝かせ、善悪の判断のできる子どもたち。
- ・人と人との関わりの中で、あいさつ、お礼、おわび等基本的なことができる子どもたち。
- ・美しいものや不思議なものに感動する、豊かな感性と好奇心の旺盛な子どもたち。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

子どもの関心や気づきを大切にしながら、好奇心と感性を育て、その育ちを見える化して
家庭や地域と共有する

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	子ども主体の活動と環境づくりの工夫を行う	A	【主体的な遊びの展開】 ・年長児を中心に、子どもたちの発想から遊びが発展する姿が多く見られた。 ・シャボン玉遊びでは、子どもたち自身が道具やシャボン玉液を作り、試行錯誤しながら遊びを広げた。 ・廃材を使った家づくりからお店屋さんごっこへと遊びが発展し、友だちと相談しながら主体的に活動を進める姿が見られた。 ・クリスマス会では、年長児が司会進行を務めながら楽器演奏を行い、自分たちで行事を進める経験をすることができた。 【異年齢の関わり】 ・満3歳児と年少児のクラスでは、年度途中から園児が増え新しい関わりが生まれる中で、子どもたちが安心して過ごせるよう教師がゆっくり丁寧に関わることを大切にした。その中で一人ひとりが少しずつ園生活に慣れ、在園期間の中でできることが増え、自信や意欲の育ちにつながっていった。 【絵画活動】 ・今年度も絵画活動に力を入れて取り組み、様々なコンクールに応募した。受賞を目的とするのではなく、多くの人に作品を見てもらうことで子どもたちの表現が評価される機会を増やし、受賞を通して自信につなげていくことを大切にしている。 ・その結果、複数のコンクールで受賞することができ、子どもたちの意欲や達成感につながった。また、在園期間中に全員が何らかの形で受賞することができ、それぞれの子どもにとって自信につながる経験となった。

2	子どもの育ちを「見える化」する取り組みを進める	B	【園の様子の発信】 ・写真掲示や日々の保育の記録を通して、子どもたちの活動や成長の様子を保護者に伝えるよう努めた。 ・昨年度よりInstagramの投稿回数を増やし、園生活や活動の様子が伝わるよう情報発信を行った。 【幼保小連携】 ・幼保小連携の取り組みについて保護者に理解してもらうため説明文を作成し配布した。 ・幼保小連携協議会やオアシス会議を通して小学校との情報共有を行った。 ・浪打小学校の運動会予行や音楽集会を参観し、小学校の雰囲気に触れる機会を設けた。 【参観日の中止】 ・3学期は大雪による道路状況悪化のため、スクールバスの遅れや運休、休園、自由登園が続いた。 ・2月に予定していた参観日は延期後に体調不良の園児が多く中止となり、保護者に園での子どもたちの様子を直接見ていただく機会を設けることができなかった。
3	家庭・地域のつながり合いながら、子どもの成長を支える	B	【保護者との関わり】 ・5月の参観日では、PTA 役員の協力により親子での生け花体験を実施した。 ・昨年度、園での子どもたちの様子をより詳しく知りたいという保護者の声があったことを受け、担任が保護者との連絡をより丁寧に行うよう心掛けた。 ・電話連絡や手紙などで子どもたちの様子を伝えるようにしたほか、個人面談以外でも必要に応じて面談の機会を設けるなど、保護者と園が子どもの成長を共有できるよう努めた。 【地域との関わり】 ・トヨペットでの整備士体験を行った。 ・青森市「むつわんカルタ出前プログラム」に参加した。 ・エコサポーターによる環境学習を行った。 ・市民図書館職員によるお話会を開催した。 これらは子どもたちに様々な体験の機会を提供し、興味や関心を広げることを目的としている。 【卒園児とのつながり】 ・運動会の案内を低学年だけでなく高学年の卒園児まで広げた。 ・夏休みに卒園児が園を訪れる日を設け、久しぶりに園で交流する機会をつくった。 ・過去の卒園生へ園の様子を知らせる手紙を送付している。 【未就園児への取り組み】 ・プレイルームやひよこクラブなど未就園児活動の周知のため、市内30箇所以上の施設にチラシを配布し、掲示や設置の協力をお願いした。 ・地域の子育て支援施設や公共施設に協力していただくことで、園の活動を知っていただく機会を広げた。 保護者アンケートにおいては、「園は小学校や地域の人との関わりを大切にし、人と関わる力を育てている」という項目について、10名中6名がA、3名がB、1名がCという結果であった。他の項目と比べるとやや評価が低い結果となったため、今後も地域や小学校との関わりの機会を大切にしながら、保護者にも取り組みの意図や様子がより伝わるよう工夫していきたい。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4.総合的な評価結果及び課題

【総合的な評価結果】

今年度は、子どもたちが様々な体験を通して学び、興味や関心を広げていくことを大切にしながら、主体的な活動を中心とした保育に取り組んできた。

保育の中では、子どもたちの発想から遊びが発展する姿が見られ、主体性や協力する力の育ちにつながる経験を積むことができた。また、絵画活動などの表現活動にも継続して取り組み、子どもたちの自信や意欲につながる機会をつくることができた。

さらに、地域の方々の協力を得ながら、環境学習や地域文化に触れる活動、図書館によるお話し会など様々な体験の機会を設けることができた。これらは子どもたちの興味や関心を広げ、豊かな経験につながる活動となった。

また、幼保小連携の取り組みを通して小学校との情報共有や交流を行い、子どもたちが安心して小学校生活を迎えられるよう支援することができた。

さらに、未就園児活動の周知や卒園児との交流などを通して、地域とのつながりを大切にした園づくりを進めることができた。

本園は園児数が少ないため、一人ひとりの子どもと丁寧に関わるができる環境にある。その特徴を生かし、安心した環境の中で主体的に活動できる園づくりを進めることができたのではないかと思う。

【課題】

今年度は大雪の影響により参観日が中止となるなど、保護者に園での子どもたちの様子を直接見ていただく機会が十分に確保できない場面もあった。今後は情報発信の方法や保護者と子どもとの成長を共有する機会についてさらに工夫していく必要がある。

また、本園は定員15名の小規模園であり、昨年度は5名でスタートしたが、年度途中から入園する園児が増え、今年度1月には15名まで園児数を増やすことができた。

しかし、今年度末に6名が卒園するため、来年度は9名からのスタートとなる予定であり、引き続き園児確保が課題となっている。

今年度は未就園児活動の周知のため、市内30箇所以上の施設にチラシを配布するなど園の取り組みを広く知っていただく活動を行った。今後も未就園児活動の充実や情報発信の工夫を進めながら、本園の特色である少人数ならではの丁寧な保育や多様な体験活動の魅力を地域に発信していきたい。

今年度は以上の通り、自己評価します。